



短歌DE小説・ゆかりのGOAL前編のあらすじ

道端に ドアだけポツンと立っていて
目的もなく開けてしまった
女子大生ゆかりが入った別世界、
出られず さまよい、星家と出会う。
令嬢の麗香と ゆかりは瓜二つ。
替え玉結婚強要される。

夢を追い 消えた麗香を見つけ出し、
復縁させねば 本当にそうなる。

仲直りさせるきっかけつかむため、

フィアンセ克哉とデートに臨むが・・・。

フェラーリの助手席に座り、がちがちに・・・。

「緊張するな〜。」

すでに不安だ。

ハンドルを握る克哉は、不思議顔。

「今日のキミって・・・。」

言葉を切った。

(なんなのよ!?)

まさか!と思う、でも多分・・・

気が付いてるわ、

『違う』ってこと。

『あの・・・』と

『ねえ?』

二人同時に 言いかけて

『どうぞ、キミから』

『いえ、あなたから・・・』

なおさらに 緊張感が高まって

ゆかりは心底テンパっちゃった。

連れ回す克哉のリード、冴えわたる。

盛り上がるままディナータイムへ。

「ゆかりさん、

麗香とタイプ違うけど、ウソがつけないかわいい人だね。」

・・・ヘタこいたあああ！

ふつうにデートしちゃってた！

・・・・・・・・どこで名前を言っちゃったっけ???

こうなれば・・・

開き直って聞いてやる！

「B型だから、嫌われちゃったの？」

「麗香って、たまに偏見ひどいけど、
それと夢とが、まさったかもな。」

・・・ ゆかりさん、どうして麗香のふりしてた？」

困るゆかりに、無理せぬ克哉。

時がたち、ディナーも終わり、会計に。

ゆかりも自分でお札を出した。

「何だ、それ？」

「彼女じゃないから、払います。」

「そうじゃなくって、それ、どこのお札？」

まじまじと、手にしたお札みつめてる。
克哉の手には・・・それって、お札！？

「そっちこそ・・・！」
一万円が、違う顔
・・・坂本龍馬！？ありえないだろ？

あれ、まさか・・・あたしのお金、使えない？

この瞬間に、

一文無しに・・・??

「ゆかりさん・・・もしやキミって・・・。」
はい、そうよ。
—— うなづくゆかり。もう、隠せない・・・。

2人分、会計済ませ、
ゆかりの手 つかんで克哉、塀の陰へと。

逃がさぬ、と言わんばかりの詰問に、

ゆかりは重い口を開いた。

笑えよ、と、
ドアのことさえ 打ち明けた。

克哉はうめいた。
「時空の亀裂、か・・・？」

ちゃかされる覚悟していたゆかりだが、

『時空の亀裂』？

・・・それって、何なの？

「麗香から、1度だけ聞いたことがある。
ばかばかしい、って、はねつけたけど。

・・・うちに来い！

運が良ければあの時のパンフレットがどこかにあるかも。」

怪事件、カギは麗香が握ってる。

帰れるかも、ってかすかな希望。

ケータイを落として 気付かずフェラーリへ。
克哉も わりと動転していた。
助手席に ゆかりも乗って、さあ発進。
国道駆け抜け、克哉の家へ。

克哉さん、1人で家を持ってるの？
新築パレスにたじろぐゆかり。

「おじゃましまーす。」
克哉に続いて駆け込んだ
彼の自宅の2階の書斎。

さわるなよ、待っててくれ、と言われてて、
ゆかりは克哉を見守るしかない。

真っ先に探した棚にびっしりと並んだ
「月刊リアル・S・F」

克哉さん、そういう話、好きなんじゃん。
なんで麗香をはねつけたかなあ・・・？

3分後、

増刊号にはさんでたパンフレットを発見できた。

「ほら、ここだ。

『階層世界研究所』。

さっそく行くぞ！」

「ちょっとおー！！ 鹿児島ー??

．．．．．電話、どこおおー？」

星家にひとこと言わなくちゃ．．．。

急いで探す、見つけれない。

外からは

「早くしろよ！」

と せかす声。

勝手な奴なの？ゆかり、半ギレ。

出てみたら フェラーリじゃなくてプリウスだ。

「燃費がいいから。」

そこ、気にするの？

「門限は、とっくに過ぎた。

なあ、千恵よ、これでおまえの作戦通りか？」

「お2人が愛を深めて、

ゆかり様、『お嫁に行く』って言うてくれれば…。」

「克哉さん、呼び出してみろ、ちょっとだけ……。」

「執事長ったら、悪趣味ですわ。」

ニヤニヤと 千恵がケータイ操作する。

そのうち、顔がくもりはじめた。

「つながらない……。」

「電源切って、巢籠もりかえ？」

「壊れてるってエラーが出てます。」

「何だって・・・？」

筆頭執事が気色ばむ。

千恵はあわててゆかりをかばった。

「ゆかり様、

麗香様のこと真剣に案じてられた

優しい方です。」

「何を言う！

トラブルばかりだ、あの女。

克哉さんにまで、何かあったぞ。

・・・もう許さん！ふんづかまえてムシヨ行きだ！

礼服軍団、出動させろ！」

特命のプロフェッショナル集団が
豪邸飛び出し 闇夜に紛れる。

そんなこと、起きる前に、と
ゆかりから
「ケータイ貸して。」
と克哉に頼むが・・・。

何てこと・・・。
克哉がケータイ無くしてた。
これって、手遅れ？ゆかり、真っ青。

「ゆかりさん、自分のケータイ・・・」
「だめ。・・・ほらね。」
規格が合わず、連絡不能。

なりゆきで ゆかりと克哉の逃避行。
プリウスが夜の高速を走る。

鹿児島県、「化け猫山」こと 由良岳の
洞穴の奥でうさぎを食う猫。

「不死身猫？ルパンの仲間？」

「それ、みねふじこ。」

新顔の真央を麗香がいさめる。

K・S・K。階層世界研究所。

夜でも意見が活発に飛ぶ。

「ビジターは、人間ですよ。間違いない。」

オペレーターが静かに言いきる。

「猫の霊と同じ世界の者にしか

魔物を倒す可能性は無い。」

バインダー開いて
図表なぞったり、
麗香が真央に詳しく話す。

道端に、白い子猫が倒れてた。

よし子がママに
「猫が寝込んだ。」

「さむいです。先輩、それより、その続き。」
自信あったのに……。麗香はへこんだ。

よし子たち、子猫を拾って介抱し
「花子」と名付けて飼うことにした。

4歳のよし子と花子は仲が良く、
呼べば花子が肩に飛び乗る。

その花子、奇怪なことに、
いつまでも寿命が来なくて 34年。

毛は抜けて、体は痩せて、でも元気。
いつしか「猫のゾンビ」と言われる。

ある部屋に閉じ込めたきり、放置して
飢え死に待ったが、死なずに鳴いてる。

耐えかねて
近所のみんなの手を借りて、花子をねじ伏せ

首を落とした。

死んだって 魂が帰る場所が無い。
よその世界の猫だったから。

やむを得ず、
花子の霊は また別の子猫にとりつき
人を襲った。

霊媒が言うには、

花子の魂は自分の世界の「あの世」に行くべき。

そのために、
同じ世界の者により死んだ事実が必要だ。

という。

よそ者が100年生きれば、
「死」を忘れ、
真に不死身の怪物と化す。

自分でもそうと気づけば、
ずに乗って 思いのままに暴れるだろう。

人間は、花子に滅亡させられる。人を激しく憎んでるから。
原爆が爆発しても、
そいつだけ、何ごともなく生き残るだろう。

由良岳に、その化け猫を追い込んで、
金網で囲い、見張り続ける。

「人知れず 魔獣を封鎖してるのが、
階層世界研究所なの。」

「おそらく、今年で花子は満100歳。」
所長の声がすぐ後ろから。

「人間のビジターがついにやってきた。
世界を救う最後のチャンス。
あの時と同じ、この斧で首を切る。
その者の手でやり直さねば。」

息をのみ、麗香が静かにうなずいた。
事態の重さに真央は困惑。

オペレーター、ビジターシグナル追跡し、
「今、県内のヤナデンにいる・・・？」

鹿児島の ヤナダデンキの3階の、
開店早々、ケータイ売り場。

「克哉さん、ねえ、もうちょっと急いでよ。」
ゆかりの声は、聞こえてないかも。

今回は、どのケータイを買おうか、と
克哉は細かく機能をチェック。

この時代、ケータイ無いと大不便。
そりゃわかるけど、せめて急いで！

「奥様は、この機種などは・・・？」
店員に 違う、と言いつつ、にやけるゆかり。

結局は、最先端の高級機、カードで買った、

さすがはセレブ。

「鹿児島、か・・・？」

礼服軍団、つきとめた 克哉のカードの使用状況。

「これはまた、気合いの入った逃亡だ。

こりゃ麗香さま、大目玉だな・・・。」

後ろから 礼服軍団、

行く手には K・S・K が ゆかりを狙う。

何もかも失くしたゆかりは

2つもの 無茶な思惑に どう立ち向かう？

中編・終わり

あとがきにかえて

この中編は、T S U M I H Aさんの投稿を交えた
合作になっています。

ご協力に感謝申し上げます。

* このストーリーは、フィクションです。

ゆかりのGOALへのリンクはこちら。

[*ゆかりのGOAL前編](#)

[*ゆかりのGOAL後編](#)

[*ゆかりのGOAL最終決戦](#)